



POST CARD

Door, 2003 208 pressed line drawings on paper, video projector, DVD, sound, loop © Shin il Kim

シンイル・キム：ドローイングと映像の交叉地点

例えばひと筆書。輪郭をなぞる一本の線から、形がひょっこりと現れてくる驚きと楽しみがある。線を描くこと。それは私たちの目の前にある形や、広がる三次元の世界を捉えようとする時、誰にも叶う、平易にして明快な表現の手段になる。

シンイル・キムの映像作品は、白い紙の上に線を描くことから生まれる。日常の一場面での身体の動き—例えばドアを通り抜けたり、紙を丸めたり、手を洗ったりするシーンを撮影し、その動きの輪郭線を一コマずつ線描で起し、アニメーションの要領で繋ぎ合わせる。映像はドローイングに解体され、形を変えて再び動画となるのだ。インクの出なくなったボールペンを使って押し書きした線によって、紙にはレリーフのように凹凸が生まれ、ドローイングにささやかなボリュームが加わる。平面にして立体的な陰影を備え、静止画であり動画。キムの映像作品にはクロスオー

バーする彼の関心が交叉し、ドローイングの概念を超えて、クラシックな手法と新しいメディアが出会う。

紙の地色そのままの、モノトーンの表現は、背景など説明的な要素をすっかり消して、見つめる対象の輪郭だけが浮かび上がる。キムが意識を向ける形と動きの抽出によって、あるものは表出しあるものは消失する。それは大量の情報が流れる現代にあって、私たちが無意識にも行っている情報の取捨選択の様と重なる。ファッション誌「ヴォーグ」の誌面に線描を施した作品では、めまぐるしく変わる雑誌広告が飛び交う情報の比喻となり、その中でキムが描いた連続した動作だけが見えてくる。

映像を、記録の手段ではなく、形なき「光」の集積から幻影のように立ち現れるイメージと捉えるキムは、物質的存在感よりも「空／void」の存在を探求し、映像の新たな可能性を手繰っている。(神谷幸江)

上映作品

- ドア / Door, 2003年、208枚のドローイング(ループ映像)
- 球体 / Sphere, 2003年、249枚のドローイング(ループ映像)
- アクション / The Action, 2004年、雑誌広告に描いた63枚のドローイング(ループ映像)

シンイル・キム Shin il Kim 略歴

- 1971 韓国・ソウル生まれ
- 1999 ソウル国立大学にて美術学士号取得
- 2001 スクール・オブ・ビジュアル・アーツ(ニューヨーク)にて美術修士号取得

主な個展

- 2007 ガレリア・デ・ラゴ/ミューゼウ・デ・リバプリカ [リオ・デ・ジャネイロ、ブラジル]
サヴァンナ芸術デザイン大学、ベイ・リン・チャン・ギャラリー [ジョージア州、アメリカ]
リカルド・クレスピ・ギャラリー [ミラノ、イタリア]
- 2006 クンストラーハウス・ベタニアン [ベルリン、ドイツ]
アルコ・アートセンター韓国文化院 [ソウル、韓国]
- 2005 ソルトワークス・ギャラリー [アトランタ、ジョージア州、アメリカ]
- 2004 インサ・アートのスペース [ソウル、韓国]

主なグループ展

- 2007 「MoAピククス」ソウル国立大学美術館 [韓国]
- 2006 「若手韓国作家展」国立現代美術館 [ソウル、韓国]
シンガポールビエンナーレ2006 [シンガポール]
「アナログ・アニメーション」ドローイング・センター [ニューヨーク、アメリカ]
- 2005 「第7回アルト・イ・キュリオスリ・ストロング・コレクション」ニューミュージアム [ニューヨーク、ほかアメリカ巡回]
「ポトランド・ビエンナーレ2005」ポトランド美術館 [メイン州、アメリカ]
- 2004 「クイーンズ・インターナショナル 2004」クイーンズ美術館 [ニューヨーク、アメリカ]
光州ビエンナーレ2004 [光州、韓国]

シンイル・キム

Shin il Kim

2008.6.28sat.-8.3sun.

01

A Window to the World
世界に開かれた映像という窓

広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art